

令和7年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証

学校の概要

三軒家西小

学校

児童数

31

平均値

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	18.27	20.44	31.00	42.06	36.75	9.33	115.69	20.38	49.27
大阪市	15.70	19.17	33.01	38.63	45.42	9.52	148.43	20.76	51.54
全国	15.96	19.46	33.88	40.89	47.94	9.46	150.93	21.06	53.02
女子	16.38	17.58	35.00	37.18	25.83	9.51	91.83	14.42	47.56
大阪市	15.40	18.33	37.58	36.86	35.15	9.83	139.41	12.67	52.58
全国	15.61	18.36	38.15	38.70	36.85	9.77	142.34	13.11	53.97

結果の概要

本校児童の体力合計点は、全国平均比(男子-3.75、女子-6.41)、大阪市平均比(男子-2.27、女子-5.02)となり双方を下回っている。

種目別では特に、20mシャトルラン(全身持久走) 全国平均比(男子-11.19、女子-11.02) 大阪市平均比(男子-32.74、女子-9.32)と、立ち幅跳び(瞬発力) 全国平均比(男子-33.38、女子-50.51) 大阪市平均比(男子-32.74、女子47.58)が大きく下回る結果となった。

また、運動習慣等調査では、「運動やスポーツをすることは好きですか」の設問に最も肯定的に回答する児童の割合は、男子94.4%(全国平均比+21.7 大阪市平均比+20.1)と、正の差がかなり大きい。女子は53.8%(全国平均比-0.3 大阪市平均比-0.7)にとどまっている。「保健の授業で学習した運動・食事・休養及び睡眠に気を付けた生活を送れていると思うか」の設問に肯定的に回答する児童の割合は、男子94.5%(全国平均比+12.5 大阪市平均比+5.3)、女子84.7%(全国平均比+3.6 大阪市平均比+5.3)で、男女とも健康な日常生活を過ごすことへの意識は高いといえる。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

本校では、スポーツウィークや姿勢キラキラ体操等の継続的な取組により、児童が日常的に体を動かす機会を確保してきた。その結果、本調査および学校アンケートにおいて運動に対する肯定的意識は高い水準にあり、5年生男子では「好き・やや好き」が100%となっている。縦割り活動でも高学年が主体的に関わる姿が見られ、握力は男女ともに全国平均を上回るなど、一部種目で成果が確認された。

一方で、体力合計点は全国および大阪市平均に届いておらず、特に20mシャトルランと立ち幅とびに課題があることから、持久力や瞬発力の向上を意識した運動を授業や取組に位置付ける必要がある。さらに、平日の運動時間が少なく、1週間の運動時間が0分の児童も存在することから、意欲を実際の運動量の増加につなげる取組が求められる。加えて、高学年の肯定率がやや低い傾向を踏まえ、体育科の学習での指導の工夫や日常の運動場面の設定を進めるとともに、体育委員会を中心に行事の企画・運営や低学年を支える役割を設け、達成感を得られる環境づくりを進めることが重要である。

これらのことから、運動への高い意欲を生かし、基礎体力の向上と平日の運動習慣の定着を図ることが今後の課題である。